2016 年冬

福島を感じて考えるスタディツアー

「スタ☆ふく」会津日本酒ツアー

来たれ若者！日本酒の扉を開く旅

~繋がる力　会津酒～

活動報告書

2016 年 3 月

企画：スタ☆ふくプロジェクト

—助成—
住友商事　東日本再生ユースチャレンジ・プログラム—活動・研究助成—2015 年度
日本財団学生ボランティアセンター Gakuvo Style Fund

0. 目次

0. 目次----------1

1. はじめに----------2

2. 企画背景----------3

3. 企画趣旨・目的----------4

4. 団体概要----------5-6

5. ツアー詳細----------7-20

①概要----------7

②アンケート結果----------8

③参加者の声----------9

④ツアー行程----------10-14

⑤まとめと振り返りのワークシートより----------15-17

⑥担当者の声----------18-19

⑦本ツアーの価値・評価----------20

6. 広報／メディア掲載について----------21-22

7. ご協力いただいた方々----------23

8. 総括----------24-25

9. お問い合わせ先----------26

1. はじめに

福島のリアルを感じてもらえるようなツアーをつくろうと、2012 年 4 月から始まった『スタ☆ふく』のツアーも今回で 15 回目を数えることとなりました。「スタ☆ふく会津日本酒ツアー2016 来たれ若者日本酒の扉を開く旅～繋がる力 会津酒～」と銘打った今回のツアーでは、20 名のお申込みをいただき、ツアーを実施することができました。これも本企画にご協力いただいている多くの方々に私たちの活動を知っていただくべく、本報告書を作成しました。この報告書が私たちの活動を知るきっかけとなれば幸いです。

1 日目参加者集合写真―懇親会会場「弦や」にて―

2. 企画背景

「福島の現状を、実際に見て体験することで、福島への関心を深めてほしい。」という思いのもと、2012 年 4 月 JASP(Japan All Student Project)という団体の 1 プロジェクトとして発足し、企画されたのが“福島を感じて考えるスタディツアー「スタ☆ふく」”でした。
これまでに県内 7 か所で計 14 回、福島県内外から計 338 名を動員するスタディツアーを実施してきました。地域の人々との交流に重点を置いたプログラムを通して、福島のありのままの現状を伝えることや、その地特有の課題に向き合う人々の「生の声」を発信していくことで、風評被害の払拭や福島への関心の高度化などをはかり、震災からの復興や地域活性化の一助となるようなツアーの企画にあたっております。参加者ならびに地域関係者からは「今後とも継続的にツアーを実施してほしい」という声を多くいただいております。

企画者自身の私たちが、一番に「福島」から学ぶこと、そして、福島の「リアル」を発信し、ツアー参加者や地域の方々と共に「復興とは」ということや、福島や各地域の「未来」について、今後も考え続けていきたいと考えております。地域と参加者をつなぐ架け橋となれるよう、今後も継続的に活動をしていきます。

昨年度、初となる会津日本酒ツアーを企画・実施し、日本酒に触れる機会の少ない若年層を取り込むことができ、関係者、参加者双方から好評の声を頂くことができました。また、私たちとしても地域と関わりつづけたいという思いと、関係者からの継続的な開催を求める声を受け、今回第 2 弾として、「会津の日本酒の広がり」に焦点を当て本企画に至った背景となります。

3. 企画趣旨・目的

会津地方は福島県の中でも山間地域が多く自然が豊かで「良い水」「良い土」「良い風土」がそろっている日本酒造りに適した土地で、日本酒造りが盛んに行われてきました。近年では、全国新酒鑑評会で金賞受賞数が都道府県別で3年連続全国1位となるなど、日本一の酒処として有名になりつつあります。また、近年の日本酒ブームの後押しもあり、首都圏を中心に日本酒普及のイベントが開催されるなど日本酒を目にする機会は増えてきています。その一方で、イベントの参加者は 30 代以降の年齢が中心であり、いまだ若者には手を出しにくい存在であることは変わっていないようです。

この状況を改善すべく、日本酒の造り手や会津の日本酒に関わる人たちと交流し、日本酒に対する想いや地元会津への郷土愛を感じることによって、日本酒や会津の人たちに愛着を持ち継続的に関わっていく「ファン」を創出したいと考え企画しました。また、会津地方は地震や津波による原発事故の影響が比較的少なかった地域と言えます。

しかし、”福島“としてひとくくりに放射能汚染されていると認識されていることにより、風評被害を受けた産業もあります。そんな中で日本酒に関わる人たちは「自分たちよりも大きい被害を被っている人たちもいるのに、自分たちが風評被害という言葉を使ってはいけない。自分たちから会津を、福島を元気にしなければ」との想いから、精力的に活動を行っています。そのような心意気を持った会津の人たちの想いを知ることから、日本酒を、会津を、福島を見つめ続ける「ファン」の創出ができるのではないかと考えたため、直接その想いを聞くことを大切に企画しました。

＜企画目的＞
会津の日本酒を通して会津・福島に愛着を持ち、継続的に関わる人材の創出

＜企画目標＞
〇定性目標
・参加者が会津の日本酒はもちろん、会津や福島を好きになる
・参加者と職人との顔が見える関係の構築をするとともに、参加者がものづくりの本質を知る
・地域の方への発信の場の提供
〇定量目標
・参加人数 20 名
・参加者満足度 100%

＜企画コンセプト＞
日本酒から広げよう 会津の絆の感動をあなたへ

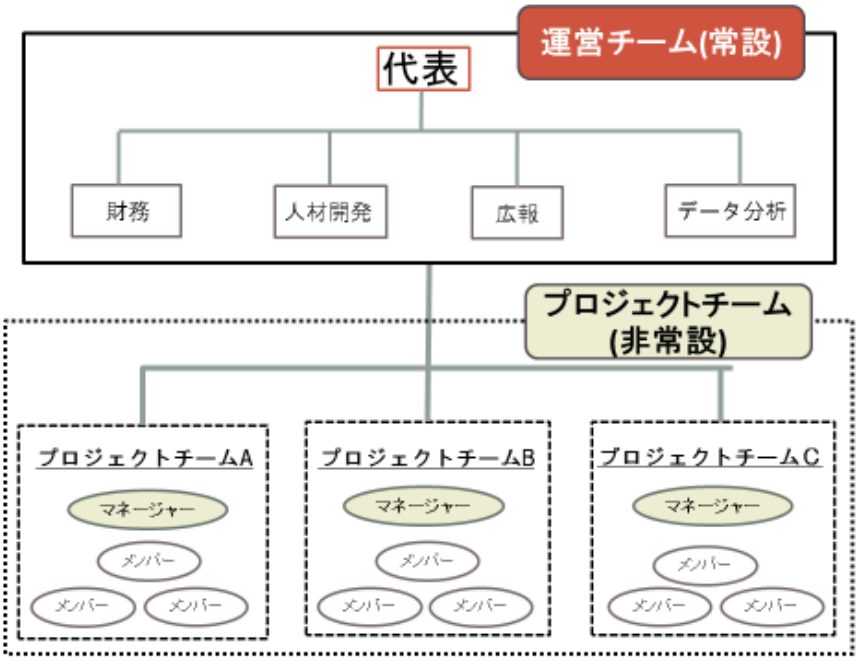
4. 団体概要

『スタ☆ふくプロジェクト』は 2013 年 4 月に母団体であった『全国学生プロジェクト（JASP）』から分離独立しました。
スタディツアー事業の活動開始は 2012 年 4 月であり、これまで福島県いわき市、二本松市、喜多方市でその土地の産業に焦点を当てた体験型のスタディツアーを 3 年に渡り実施してきました。
また、県内の学生や高校生をターゲットに、「地元から学ぼう」をコンセプトに「ふくしま若者ツアー」といった日帰りツアーや、会津の日本酒振興策を学生が考える「若者が考える会津日本酒コンテスト」等の実施も行っています。全メンバーが福島大学の学生によって組織された組織で 2016 年 3 月 31 日現在 20 名で活動を展開しています。

プロジェクト開始：2012 年 4 月　　団体発足：2013 年 4 月

【受賞歴】
2013 年 6 月　観光庁主催『若者旅行を応援する観光庁官賞「東北ブロック賞」』受賞

【組織図】



【構成メンバー（2016 年 3 月現在）】

～運営チーム～

代表	羽賀さやか	行政政策学類	3 年
財務	田辺　将大	共生システム理工学類	3 年
人材開発	渡部　直子	人間発達文化学類	3 年
広報	菊地　実咲	人間発達文化学類	1 年
データ分析	阿部　晴佳	行政政策学類	3 年

～活動メンバー～

吉田　江里	人間発達文化学類	4 年	三浦　菜生	行政政策学類	3 年
武藤茉奈美	人間発達文化学類	4 年	平澤　和弥	経済経営学類	2 年
遠藤はるひ	行政政策学類	4 年	菅野　ゆう	行政政策学類	1 年
安斉　　舞	行政政策学類	4 年	宝槻　亮汰	行政政策学類	1 年
國分　花菜	経済経営学類	4 年	伊藤　如晏	経済経営学類	1 年
吉田　光希	経済経営学類	4 年	牧内　美樹	経済経営学類	1 年
黒澤　和也	経済経営学類	3 年			

【過去のスタディツアー】

2012 年 8 月	「スタ☆ふく　水産・漁業ツアー」	いわき市	(32 名動員)
2012 年 9 月	「スタ☆ふく　観光業ツアー」	喜多方市	(27 名動員)
2012 年 9 月	「スタ☆ふく　農業ツアー」	二本松市	(25 名動員)
2012 年12月	「スタ☆ふく　冬の二本松ツアー」	二本松市	(18 名動員)
2013 年 8 月	「スタ☆ふく　水産漁業ツアー」	いわき市	(37 名動員)
2013 年 9 月	「スタ☆ふく　まちづくりツアー」	二本松市	(33 名動員)
2013 年11月	「スタ☆ふく　ふくしま若者ツアー（子ども）」	郡山市	(15 名動員)
2013 年11月	「スタ☆ふく　ふくしま若者ツアー（食）」	福島市	(12 名動員)
2014 年 8 月	「スタ☆ふく　霊山町子どもツアー 」	伊達市	(20 名動員)
2014 年 8 月	「スタ☆ふく　水産漁業ツアー」	いわき市	(32 名動員)
2015 年 2 月	「スタ☆ふく　会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町	(19 名動員)
2015 年 2 月	「スタ☆ふく　東和田舎暮らしツアー」	二本松市	(13 名動員)
2015 年 8 月	「スタ☆ふく　水産漁業ツアー」	いわき市	(40 名動員)
2015 年 9 月	「スタ☆ふく　東和農業ツアー」	二本松市	(15 名動員)
2016 年 2 月	「スタ☆ふく　会津日本酒ツアー」	会津若松市・会津坂下町・喜多方市	(20 名動員)

【団体連絡先】

〒960-1296　福島県福島市金谷川１　福島大学学生課　「スタ☆ふくプロジェクト」
Mail：suta.fuku@gmail.com

5. ツアー詳細

①ツアー概要

＜タイトル＞
「スタ☆ふく会津日本酒ツアー2016　来たれ若者！日本酒の扉を開く旅」

＜テーマ＞
「～繋がる力　会津酒～」

＜実施日＞
2016 年 2 月 20（土）～2 月 21 日（日）（1 泊 2 日）

＜実施場所＞
福島県会津坂下町、喜多方市、会津若松市

＜参加者動員数＞
計 20 名

＜参加スタッフ＞
羽賀さやか（福島大 3 年）
田辺将大　（福島大 3 年）
菊地実咲　（福島大 1 年）

黒澤和也　（福島大 3 年）
牧内美樹　（福島大 1 年）
菅野ゆう　（福島大 1 年）
伊藤如晏　（福島大 1 年）
宝槻亮汰　（福島大 1 年）

＜参加料金＞
一般料金：20,300 円（1 名様 1 室）
　　19,800 円（2 名様 1 室）
25 歳以下の参加者は先着 15 名で 4,000 円の割引き

②アンケート結果

○ツアー満足度全体平均
3.76 / 4.0　ポイント

	悪			良		
	1	2	3	4	計(人)	平均
① ツアー全体			1	19	20	3.95
② ツアー料金		1	10	9	20	3.40
③ タイムスケジュール			6	14	20	3.70
④ お食事			7	13	20	3.65
⑤ コンテンツ			2	18	20	3.90
⑥ 宿泊先			5	14	19	3.74
⑦ スタッフ対応			1	19	20	3.95
					全体平均	3.76

4⇒満足
3⇒どちらかといえば満足
2⇒どちらかといえば不満足
1⇒不満足

③参加者の声（一部抜粋）

・蔵元の方との交流で、貴重な話が聞けた。会津の日本酒がおいしかった。地元を盛り上げようとする気持ちが強いと感じた。（20 代、男性）

・普段じゃ経験できないことを経験できて本当によかったです。またスタッフが学生なので、少し私たちと目線が同じところもあって、ツアーをリラックスしてまわれました。ありがとうございました。勉強になった、何より楽しかったです！（20 代、男性）

・お酒のおいしさ、食事との合わせ方、色々教えてもらい得るものが本当に多かったです。スタッフの方、現地で日本酒と関わる人々の楽しそうな顔で癒されました。この気持ち、愛知に大切に持ち帰ります。（20 代、女性）

・現地の方の今後の酒造りへのビジョンを知り、ここまで考えてお酒を造っていらっしゃることに共感でき、将来に対する期待も持ちました。大学生の皆さんの手づくりでここまで内容の濃いツアーを実践していることが素晴らしいと思いました。とてもいい体験になりました。（30 代、女性）

・杜氏さん達の、酒造りを通して福島を盛り上げようという思いに感動しました。地域（地元）の活性化というところまで仕事をしているのは、素晴らしいことで、自分も刺激を受けました。（20 代、男性）

・とてもいい経験ができました。ありがとうございます。自分も東京に帰って福島の魅力を発信し続けていくことで、日本酒人口や、福島のファンを増やしていく一助になれたら、と思いました。（20 代、男性）

④ツアー行程

1 日目　2 月 20 日（土）

11：00	郡山駅集合・出発	スタッフがパネルを持って、参加者を出迎え。
12：10	昼食（馬刺定食）	坂下堀ドライブインにて昼食。自己紹介も行い、参加者同士の交流を深めた。
13：05	日本酒基調講演	五ノ井酒店の五ノ井さんに日本酒の基礎的な用語や工程、会津と日本酒のつながりについてお話ししていただいた。

14：10	米問屋講演	米問屋の猪俣さんに米問屋としての役割や酒米と飯米の違いを実際に食べ比べもさせてもらいながら講演していただいた。
15：00	曙酒造見学	杜氏の孝市さんの案内の下、見学させていただいた。その後、試飲も交えながらお話をいただき、地元を想う孝市さんの想いを強く感じた。
17：30	蔵元パネルディスカッション	喜多方の 3 蔵（峰の雪酒造場、喜多の華酒造、笹正宗酒造）の杜氏さんと會津酒楽館の店主の宗太郎さんの掛け合いにより、笑いもありながら、お三方を知ることができたパネルディスカッションとなった。

18：30	懇親会	各蔵の杜氏さんはもちろん、1 日目にお世話になった五ノ井さんや猪俣さんなど、豪華な会津の方たちと会津の日本酒や日本酒に合うおいしい料理をいただいた。お酒も入ることで会話も弾み、とても盛り上がった。

2 日目　2 月 21 日（日）

9：40	大和川酒造見学	杜氏の哲野さんの案内の下、見学させていただいた。米作りや電力までも自社で作りすべて会津のもので作るという真の意味で自立した酒造りを目の当たりにした。
11：25	慶山焼手びねり体験	店主の曲山さんに丁寧に指導していただきながらものづくりの大変さを感じた。参加者同士も非常に打ち解けた様子で、ぐい呑みを作っていた。
12：45	昼食（そば）	桐屋夢見亭での昼食。

13：35	お土産購入	會津酒楽館で、見学した酒蔵を思い出しながら、この 2 日間で見つけた自分の好きな日本酒を購入した。
14：30	ワークショップ	この 2 日間で印象に残ったことをグループで共有し、それをもとに、Twitter を想定した 140 字の自分の言葉でこの会津ツアーを表現した。
17：45	郡山駅解散	2 日間ありがとうございました！

⑤まとめと振り返りのワークシートより

《20 代男性・福島》
会津日本酒ツアーにて、蔵元の方と実際に顔を合わせながら、その蔵のお酒を飲む機会を設けてもらいました！蔵元の方たちがどんな思いで日本酒を作っているのか、日本酒の美味しい飲み方、ここだけは他の蔵には負けてない！など貴重な意見を聞きながら日本酒を飲むことができました！ありがとう、スタふく！

《20 代女性・埼玉》
福島日本酒ツアー！地元の人の日本酒への愛や、仲間・ライバルとしてお互い高めあう姿がとても印象的でした。今まで何気なく飲んでた日本酒でしたが、私たちの元に届くまで丁寧且つ繊細な職人技がたくさん込められてました。そんな愛情たっぷりな福島の日本酒に触れられた素敵な 2 日間でした！！

《20 代男性》
会津に行ってきました！
日本酒を学んだ 2 日間。
お酒を造っている杜氏さんの熱い思いに感動しました。
その思いが福島の日本酒のおいしさにつながっていると実感しました。
ぜひ、福島の日本酒を飲んでください。けど、飲みすぎは禁物です（笑）

《20 代女性・埼玉》
会津日本酒ツアーに行ってきました！参加したからこそ出会えた人やお酒、想いがたくさんありました！！蔵見学など、そのどれもが初耳初体験。これから飲む日本酒はもっと美味しくなりそうな予感。若いうちに知ることが出来てよかった！もっといろんなお酒も飲みたいな～

《20 代女性・栃木》
酒造見学や蔵元の方とお話をして、蔵元の方の日本酒に対する思いや会津・福島に対する思いがとても強いと感じた。そしてこれから日本酒を通して会津を盛り上げていこうとする地域の人の姿がかっこよかった。私自身、今回のツアーでさらに会津や日本酒が好きになったし、他の人にも訪れてほしい！

《30 代男性・東京》
＃日本酒＃福島＃会津
＃蔵元＃杜氏は思いのこもった酒を造っている。このクラフトマンシップと日本酒を仲間と共有して楽しみたい！！
又、東京から＃訪日客に会津日本酒を楽しんでほしい。
日本酒からの＃フレンチのアプローチや＃SAKE＃BAR の紹介をしていきます！！！！！

《20 代女性・福島》
会津の日本酒が今熱い！若者の日本酒離れが嘆かれる今日ですが、地元蔵元をはじめとする多くの方々が日本酒を愛し、全情熱を注いで日本酒を全国に広めようと日々努力し

ていることを知りました。会津を愛し、日本酒を愛し、チャレンジを続ける地元の方々のひたむきな姿に感動しました。日本酒、万歳！！

《20 代男性・東京》
会津日本酒ツアーきた！来て一番思ったことは、自分も発信源になろうということ。杜氏さんの話を聞いて、酒造りに懸ける手間や想い、その酒が造られるに至った背景を知って、酒を一層味わって飲めるようになったと思う。美味いの不味いのだけじゃなくてうんちく垂れながら福島の酒を皆に紹介したいな。

《20 代男性・新潟》
とにかく福島の酒は美味しいという印象がある。今回のツアーではその酒を作る蔵人さんたちと交流ができた。自分の蔵の良いところや誇り、時には改善点までも丁寧に話して頂いた。若い蔵人さんたちは互いに情報を交換し、切磋琢磨していた。彼らを応援するという意味でも、うまい福島の酒を飲もう！

《30 代女性・東京》
日本酒から広がる会津の魅力、郷土のよさを活かした日本酒造り、お米への情熱、日本酒から始まる酒器や食へのこだわり、地域産業の活性化、震災から日本酒造りを通して復興へと繋がる人々の想い。会津のよさを 2 日間で味わえる愛のあるツアーでした。＃体験型

《20 代男性・埼玉》
日本酒には杜氏の魂が込められている。その思いとはどんなものか。おそらくベースとして、多くの人においしい酒を飲んでほしいという思いがあるだろう。またそれぞれ日本酒を通して自分の土地の魅力を発信したいとも思っている。杜氏はそれぞれ人のため地元のためという尊い気持ちを込めているのだ。

《20 代男性・宮城》
思うに、日本酒はアニメと同じなのだ。監督・作画・声優たる杜氏・蔵人の想いを視聴者たる呑み手がどう受け取るか。「〇〇〇〇はいいぞ」とうなるのも、ファンとして追っかけるのも、飲み方という二次創作をするのもあり。そういう意味で、会津は聖地だ。
＃スタ☆ふく＃会津日本酒ツアー2016

《20 代女性・愛知》
会津日本酒ツアーに参加。
愛知からは遠すぎたけど、杜氏さんとの出会い・心のこもったお酒との出会いに感動！
甘い・酸っぱい・広がる・引く…味覚もちょっぴり成長したみたい♪
これからは流し込むお酒じゃなく、心を込めて味わうお酒をたしなみたい。

《20 代女性・埼玉》
日本酒を造る人も表現者、器を作る人も表現者、呑んで楽しむ人も表現者。それぞれの思い表現が集まったときに、自分だけのうまい酒になるんだなと思った。受動的になるだけじゃなくて、日本酒の良さをもっと伝えていって楽しめたら良いな。
＃会津日本酒ツアー2016

《40 代男性・福島》
今日まで 2 日間「スタふくツアー」で会津、喜多方にいました。酒蔵見学、酒の飲みくらべ、杜氏さんと居酒屋「弦や」での懇親会すごく自分のためになり酒に対するおもいなど伝わることもたくさんありました。以前は仕事で通過しただけの喜多方でしたが立寄り、酒がなくなり買い物に行ける喜多方でありたいです。

《20 代女性・愛知》
テレビや本ではなくて、実際に会って話を聞いて、その人が目指しているもの、震災からのチャレンジ、お酒の向こう側にあるストーリーを知ることで、その蔵人、地域、そして日本酒のファンになる。また、話したい、買いたい、応援したいと思える。熱い想いを持ってそれを語れる人はかっこいい。

《40 代男性》
酒造りというと年配の人が作っているイメージがあるが、今会津では若手が意欲的にいい酒作りに励んでいた。米作る人、問屋の人、酒作る人、酒を売る人が蜜につながって地域に風を吹かせていた。会津の米は食べてよし、飲んでよし、蔵に入れば香りよし。

《20 代男性・新潟》
今回のツアーで「出会いの力」について気付いた。普段、日本酒を飲む際に、造り手の顔までは知らない人が多い。会津の酒造や、米問屋、酒販店などの方々と直に話し、地元愛や酒造りの熱意を知った。ふとどこかで会津のお酒を見かけたら、出会えた方々の顔やツアーの思い出が自然と浮かぶことだろう。

《20 代女性・新潟》
会津日本酒ツアーに参加！
地元愛あふれる若い世代の方々が日本酒をその土地の米を使って作り、「会津のお酒」にしていることが印象的だった。今回のツアーでその土地の雰囲気や作る人の心がお酒から感じられるようになった気がした！

《30 代女性》
味へのこだわり、若いエネルギー、情熱、故郷への愛、の集合体が会津の日本酒です！震災の困難を経験しながらも、それを乗り越えて、それぞれが目指す酒造りを実現するため、日々明るく楽しく酒造りをしています！これからはそのことを思い浮かべながら、楽しくお酒を飲みたいと思います。

⑥担当者の声

今回のツアーは地域の方と参加者の距離が非常に近いものになりました。それには二つの要因が関係しているのではないかと思います。まずは会津の方々の温かさです。下見の段階で我々スタ☆ふくを優しく迎え入れてくれる温かさを感じていました。そして、ツアー当日も各コンテンツからそれを参加者に感じ取っていただけたのか、参加者と会津の方々がとても楽しそうにお話しする姿を見ることができました。もう一つの要因は会津の日本酒の力。日本酒にはその造り手の想いが込められています。自分の好みを理解してくれる人に飲んでほしいと思って酒造りをしている蔵元がいれば、日本酒に苦手意識を持っている方に飲んでほしいと思い酒造りをしている蔵元もいます。また、地酒にこだわり、会津や福島の良いものを使って酒造りをする蔵元もいます。そんなこだわりと想いをもって造られた日本酒にはそれを知った人たちを離さない、もっと日本酒を知りたくなるような魅力があります。私自身も会津の日本酒の蔵元や銘柄について知りたいと思い、どんどん詳しくなっていきました。そしてツアー当日、お酒を一杯一杯丁寧に飲んでいる参加者も見受けられ、参加者の皆さんにも私がこれまでに感じてきた会津の日本酒の魅力を感じ取っていただけたようで、うれしく思いました。また、参加者から蔵元など会津の方に話しかけられるなど会津の方をより身近に感じて楽しくお酒を味わっていただけて、ツアー後も参加者と会津の方とが継続的に関わり続ける足がかりになったのではないかと思います。

企画当初、未成年である私が日本酒をテーマにしたツアーを作ること自体、不安に感じていました。日本酒や会津地方に特別な想いや興味、知識を持っていたわけではなかったからです。そんな中で始まったツアーの企画でしたが、先述した通り、企画を進めるうちに日本酒や会津の方々に興味が湧き、自分で調べたり下見を重ねたりしてどんどん詳しくなっていきました。そうしたことで会津の方々の想いはもちろん、日本酒についても多くの方に知ってほしいと強く思うようになり、企画前とは全く違う自分になりました。また、今回のツアーを経て会津の方々の震災に対する想いを知ることができ、他の地域の方々は現在そのことに対してどういった想いを持っているのか、現状はどうなのか、直接お話を聞きたいと思うようになりました。今までメディアで報道される情報を得るだけで満足していた私としてはとても大きな変化です。今回のツアーを企画したことで参加者に変化を起こしただけでなく、私自身が大きく変化し、実際に体験することの大切さを学びました。

最後に、このようなツアーを企画することができたのも、ご協力していただいた皆様の支えがあったからです。今回のツアーを企画、催行するにあたりご協力していただいた関係者の皆様、ツアーに参加してくださった皆様に御礼申し上げます。今回得た学びを活かし、さらに一層精進して活動して参りますので今後ともよろしくお願いいたします。

会津日本酒ツアー2016 企画担当
福島大学１年　菊地実咲

本ツアーの企画を担当して、これほどまでに日本酒の世界、会津の地域に引き込まれていくとは思いもしませんでした。企画が始まった当初はほとんど日本酒に対する知識がないところからのスタートだったことを思い出します。そんな中、実際に地域にリサーチへ行くとそこに感じたのは、酒造りで福島をけん引していこうとする蔵人たちの熱い想いと強い横の繋がり、様々な立場で日本酒に携わる方々同士が地域一体となって会津の日本酒を良くしていこうと見せる団結力、そして私たちスタ☆ふくをこころよく迎え入れてくださる会津の人々の温かさでした。リサーチを重ねるごとに“人”に魅せられて会津の日本酒にどんどん惹かれていき、毎回会津へリサーチに行くのを楽しみにしていたのと同時に良いツアーを作ろうと日本酒の基礎知識や会津の酒蔵や銘柄、蔵人のことなどを夢中になって勉強しました。本ツアーで目指したことは、会津の日本酒の美味しさを伝えるのはもちろんのこと、会津の人々の繋がりや地域の温かさ、地域産業など日本酒を通して見えてくる魅力を参加者に伝えることで会津を好きになってもらい、その後も継続的に会津に足を運んでいただくことです。会津で二度目のツアー開催となった今回、酒販店や飲食店、日本酒の原料となる米の問屋や日本酒を飲む焼き物の職人にまで関係者の輪を広げ、会津に足を運ぶ回数を増やし、地域の方々の声を積極的に取り入れて共につくりあげた企画だったように思います。

企画を通し、1本の日本酒が私たちの手に届くまで、蔵人の他にも米の農家さんから始まり酒販店や飲食店まで、たくさんの人々が携わり、一人一人の想いがそこに込められていることを知りました。ツアー当日の懇親会では、そんな日本酒で繋がる人々が一堂に集まり、参加者と時間を共にすることで生まれる会話や笑顔、双方にとっての新しい気づきを感じることができ、会津の日本酒が持つエネルギーや地域の一体感を参加者にも感じ取っていただけたことと思います。最後のまとめと振り返りの時間では、ツアーを通して私たちが伝えたかったことが参加者からの声で聞くことができたり、「企画してくれてありがとう」というお言葉をいただいたりした時は企画側として心から嬉しく思いました。ただ、ツアーを成功させることができたのも地域の方々の厚いご協力があったためであることを忘れてはなりません。あっという間の 1 泊 2 日の時間ではありましたが、会津の日本酒が日本一となった理由が垣間見え、その将来に注目するきっかけとすることができたのではないかと思います。私自身、今後もっと会津の日本酒がより良くなっていくことを期待すると同時に、これからもずっと継続的に目を向け続け、企画を通して感じた魅力を伝えながら会津の日本酒を応援する仲間を増やしていこうと思います。

最後になりますが、ツアーを経て改めて私たちは多くの方々の支えによって活動ができていることの喜びを実感することができました。こころよくご協力いただきました関係者の皆さま、ご参加いただいた皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。

会津日本酒ツアー企画担当
福島大学３年　田辺将大

⑦本ツアーの価値・評価　（2016 年 3 月 4 日ツアー反省会より）

今回、福島県会津地方では 2 度目のツアー開催となりました。ツアーで成し遂げられたこと、成し遂げられなかったこと、今後に活かす反省点などを、地域関係者と参加者のそれぞれの視点で考察していきました。

●本ツアーで成し遂げられたこと

（1）地域にとって

・普段接点のない県外の人や若い人（20～30 代）に日本酒の魅力、想いを直接伝える場を創出できた。
・消費者の声を直接聞くことが出来た。
・地域の人々が集い、想いを共有することでより一層地域の関係性を強いものに出来た。
・お土産購入による経済的効果を生むことが出来た。

（2）参加者にとって

・造り手など、日本酒に携わっている人々と親密な関係を築くことが出来た。
・日本酒の楽しみ方が広がった。
・郷土愛に触れ、日本酒だけでなく会津・福島に想いを寄せるようになった。
・会津の方々の気概に触れ、活力をもらうことが出来た。

●本ツアーを経ての課題・考察

会津でのスタディツアー開催は 2 度目となりました。私たちとしましては比較的新しい土地での実施ではありましたが、昨年度より協力者を広げることができ、充実したツアープログラムを企画することができたのではないかと思っています。

今回は、前回の反省も踏まえ、「会津が抱える課題ときちんと向き合う」ことを意識してきました。しかし企画を進める中で、近年、会津の日本酒は注目度も高く、責任者として若手が台頭しているなど良い傾向に向かっているため、明確な課題を捉えきれずに終わってしまったことは否めません。日本酒ブームが来ていると言われる今、若者にとって日本酒はもはや縁遠い存在ではないのかもしれません。そのような世の中の動きにアンテナを張りながら、私たちに出来ることを見極めていくことが必要だと考えます。今後、会津で日本酒をテーマにして企画することの意味を深く考え、会津地方という括りで見るのではなく、福島全体として課題を捉え、その中で会津地方に我々が何をもたらすことができるのかということを突き詰めていきたいと思います。

また、今回は「日本酒ビギナー」に対象を絞り、対象に沿ったプログラムを作りましたが、参加者の方々の中で日本酒ビギナーと呼べる方は一握りだったように思います。今後、対象に届く、より効果的な広報の手段を模索していく必要があると感じました。

６．広報・メディア掲載について

＜宣伝方法・経緯＞

1 月 5 日	募集開始
1 月 29 日	ツアー催行決定

・スタふく HP（http://sutahuku.jimdo.com/）
・Facebook ページ
　　…イベントページ作成、コンテンツ内容や地域紹介などのツアー情報を発信
・twitter アカウント（@Study_Fukushima）
　　…準備の進捗状況やツアー告知などをこまめに発信
・スタ☆ふくブログ（http://ameblo.jp/sutafuku/）
　　…事前下見の様子などメンバーの活動を写真と共に掲載
・テレビ局、ラジオ局、新聞社への取材依頼
・告知協力のお願い
　－福島大学教授、ゼミ
　－各大学のボランティアサークル、日本酒サークル、学生団体
　－ボランティア、観光、日本酒に関する団体
　－アンテナショップなどの商業施設
・スタッフの知人を通した告知

＜メディア出演・掲載履歴＞
▽新聞
　1 月 23 日　福島民報新聞

福島の酒 魅力知って

福大生 来月20、21日会津ツアー

コメ問屋の役割理解

29日まで参加者募集

福島大の学生でつくる「スタふくプロジェクト」は三月二十、二十一の両日、会津日本酒ツアーを行う。参加者を募っている。

昨年に続くツアーだが、今年は新たに酒米を通じて「コメ問屋の役割」を学ぶ。ツアー参加後も日本酒に親しめるよう、酒作りの秘訣などを聞き、酒蔵を見学する。町内のコメ問屋の担当者から千葉県産の米と酒米の違いなどについて話を聞く。夜は会津の社長さんとの交流会を開き、懇親会を催す。さらに酒をたしなみながら、日本酒のおいしい飲み方を学ぶ。二日目は豊実方面の人和川酒造を訪ねる。会津若松市で地ビールのないのみ作りを体験する。

羽鳥さやかさん（行政政策学類三年）、田辺将大さん（共生システム理工学類三年）、菊地実佑さん（人間発達文化学類一年）が中心となって企画した。昨年十一月から実際に酒蔵を訪ねるなどして計画を練り、福島の良さを伝えるツアーにしようと話し合いを重ねてきた。「つまらない日本酒に興味のなかった人も楽しめるはず。地域の魅力を知るきっかけにしてほしい」と参加者を呼び掛けている。

定員は三十人。参加費は一万九千八百円（一泊二食、酒蔵見学、懇親会）。申し込みは福島発酵醸造研究会（ｓｕｔａｈｕｋｕ．ｍｅｅｔｕｐ．ｃｏｍ）、または電話024（531）2000へ。

ツアーへの参加を呼び掛ける（左から）羽鳥さん、菊地さん、田辺さん

中心となってツアーの企画を進める（右から）羽鳥さん、田辺さん、菊地さん

1 月 26 日　しんぶん赤旗

しんぶん　赤　旗

会津の蔵元 訪ね交流

福島大生が来月ツアー

福島大学の学生グループが、県内外の社会人や学生を対象に、会津の日本酒の蔵元を訪ねる1泊2日の学習ツアーを企画し、参加者を募集しています。

ツアーは、会津坂下町と喜多方市の蔵元で製造を見学、試飲、懇親で蔵元、販売店主、酒屋店主と交流し、人のつながりも実感してもらおうというもの。テーマは「日本酒から広げよう　会津の感動の絆をあなたに」。

企画した福島大学生有志グループ「スタ☆ふく」は、東日本大震災後の2012年に発足。風評被害を払拭（ふっしょく）し、福島の地域を活性化させようと、地域住民との交流を特徴とする県内のスタディーツアーをよびかけてきました。

これまで7カ所計14回338人参加の企画を実施。13年度に観光庁主催の第1回若者旅行を応援する取り組み表彰で、東北ブロック賞を受賞しました。

2月20日（土）から21日（日）、郡山駅発着のバスツアー。申し込みは福島交通観光024（531）8950。参加費約2万円。締め切り29日。

2 月 25 日　読売新聞

ろくろでぐい飲み作り体験

福大生 日本酒ツアー企画

会津慶山焼の工房でぐい飲み作りに挑戦する参加者ら（21日、会津若松市で）

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興が進む本県をPRするため、福島大の学生が企画したスタディーツアー「スタ☆ふく会津日本酒ツアー」が20、21日、会津若松市や喜多方市などで行われた。

原発事故の風評払拭と地域活性化を目的に、学生団体「スタ☆ふくプロジェクト」が2012年4月から県内で開催している。観光名所を訪れるだけでなく、地域住民との交流を通じて復興の現状や課題を知ってもらう。これまでに7か所で開催し、県内外から約400人が参加した。

今回は東京都や愛知県などから集まった20人が、会津地方の酒蔵や伝統工芸品の工房などを訪れた。会津若松市の「会津慶山焼」の工房では、ろくろを使ってぐい飲み作りを体験した。

東京都杉並区、会社員稲本智子さん(32)は「地域を盛り上げようという熱気を感じた。これからも福島を応援したい」と話した。

７．ご協力いただいたみなさま

＜企画＞
・会津旨酒五ノ井酒店　五ノ井智彦様
・有限会社猪俣徳一商店　猪俣優樹様
・曙酒造合資会社　鈴木孝市様
・會津酒楽館　有限会社渡辺宗太商店　渡辺宗太郎様
・合資会社喜多の華酒造場　星慎也様
・笹正宗酒造株式会社　岩田悠二郎様
・合資会社峰の雪酒造場　佐藤健信様
・もつ焼き酒場弦や　山口広幸様
・合資会社大和川酒造店　佐藤哲野様
・株式会社やま陶　曲山輝一様

＜企画実施＞
福島交通観光株式会社

今しかできない旅がある
若旅

2013 年 6 月には、福島県復興のために地元若者が県内外の多くの若者を巻き込んでツアーを実施している点が評価され、「第 1 回若者旅行を応援する観光庁官賞・東北ブロック賞」を受賞しました。

本プロジェクトは「住友商事　東日本再生ユースチャレンジ・プログラム―活動・研究助成―2015 年度」、「日本財団学生ボランティアセンター　Gakuvo Style Fund」助成対象事業としてご支援いただいております。

Gakuvo Style Fund
本基金からの支援を受けています

8. 総括

2012 年 4 月にプロジェクトが発足したスタ☆ふくプロジェクトのメイン事業であるスタディツアーも今回で 15 回を数えるに至りました。このようにツアーの回数を重ねながら、活動を続けられているのは、各地域の関係者の皆様をはじめ、毎回多くの方々のご理解とご協力をいただいているおかげです。感謝の気持ちを忘れず、団体や福島の更なる発展のためにチャレンジしていく姿勢を大切にしていきたいと思います。

会津でツアーを開催するのは今回で 2 度目となりました。前回も今回も、ツアーのテーマは大きくいうと「日本酒」です。このテーマ設定の背景には、“被災地福島”という側面だけでなく、純粋に美味しいものや美しい風景、魅力的な人々に会いに気軽に福島に来てほしい、という願いが込められています。震災から月日が経つにつれて、それぞれの地域で抱える課題が変化していく中、もっと柔軟に、より多くの人に福島の魅力を伝えられないかと手段を模索していました。団体発足時からの「メディアでは伝わらない福島のリアルを伝える」という想いを引き継ぎ、その時その時で多様化していく福島の課題や地域のニーズを捉え、今回の会津日本酒ツアーという形に落とし込めたのではないかと思っています。今後は、被災地である福島の今を知る、という肩肘をはったものばかりではなく、より多くの人が興味を持てるようなツアーのテーマを設け、多くの方に福島の魅力を知っていただく、足を運んでもらう必要があるのではないかと感じています。これは、福島の被災地としての側面を伝えないということではなく、震災後の福島の今を発信する、という姿勢を持ち続け、世の中の動きや地域それぞれのニーズを的確に捉え、既存のものに執着せずに柔軟な発想で企画に反映させていくということです。地域の方々とお会いしていくなかで、どんな人・モノの背景にも震災での経験があるということに気付かされました。それぞれの経験や職業は違えど、故郷を思う気持ちはひとつ。震災をバネに踏ん張り続ける人々の存在が、今の福島を形作っているのだと感じています。

そのような地域の人々を通して福島の今を感じ取っていただけるようなプログラム作りに力を注いでいきたいと思います。この観点から見ると、今回の会津ツアーでは、震災を機に、会津の日本酒から福島を盛り上げるという地域の方々の気概や、故郷を想い奮闘する人々の姿・情熱を伝えることで、会津の日本酒、そして福島との繋がりを持つきっかけを創出することが出来たと思います。参加者の方からも「自分の地元に戻ったら福島の魅力を発信していきたい」「日本酒がこんなに想いを込めて造られていることを知って感動した。より一層味わって飲んでいきたい」といった声をいただきました。実際に福島に足を運んでいただくということは誰もが簡単に出来ることではありません。ツアーという形を取ると、企画に 3 か月もの時間を割くにも関わらず、参加人数は限られてくるため、1 回のツアーで多くの方に効率良く発信することは出来ません。また、福島に実際に足を運ぶということは手間もお金もかかることであることも確かです。しかし、参加者の方々の反応を受け、福島の風評被害払拭、地域活性化のためには一番の近道なのではと思い、私たちが選んだツアーという手段は決して間違っていなかったと心から感じます。

ツアーの当日を経て、毎回感じることは、我々の活動は、地域の方や参加者の皆様、本当に多くの方々のお力があってこその活動だということです。私達自身の中だけで完結するのではなく、今後はより一層福島から必要とされる、求められる団体でありたい

と思います。そのためには、自分たちが一番に学び、地域の皆様の良き理解者であることに努めたいと思います。そして、福島から学んだことをまずは自分たちが“実践”していくこと、その上で参加者の皆さんと地域を繋ぐ架け橋となっていきたいです。それが福島にいる学生だからこそできることなのではないかと感じています。

私たち「スタ☆ふくプロジェクト」は地域の方々のご協力があってこそ充実したツアーをつくることができており、今回も地域関係者の方々には全面的にご協力をいただきました。故郷の魅力を知ってほしい、という皆様の熱い気持ちが私たちの活動の原動力になっておりました。改めまして、地域の関係者の方々をはじめ、日頃から応援してくださる多くの皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございます。

最後になりますが、先輩から引き継いできたバトンを今度は後輩へと渡し、地域と、地域の人々と真摯に向き合い、福島の発展に少しでも寄与できるよう活動を続けていく次第です。まだまだ未熟な団体ではありますが、何卒ご指導ご鞭撻をいただきながら、スタ☆ふくプロジェクトを応援してくださると幸いです。

2016 年 3 月
代表　羽賀さやか

9. お問い合わせ先

スタ☆ふくプロジェクト

3 代目代表：羽賀さやか（～2016 年 3 月）
4 代目代表：菊地実咲　（2016 年 4 月～）

住所:福島県福島市金谷川1
福島大学学生課 スタ☆ふくプロジェクト宛

Mail：suta.fuku@gmail.com
HP: http://sutahuku.jimdo.com/
ブログ: http://ameblo.jp/sutafuku/

編集
「スタ☆ふく」会津日本酒ツアー2016 担当

福島大学	行政政策学類 3 年	羽賀さやか（団体代表）
福島大学	共生システム理工学類 3 年	田辺将大
福島大学	人間発達文化学類 1 年	菊地実咲
福島大学	行政政策学類 1 年	菅野ゆう
福島大学	経済経営学類 1 年	牧内美樹
福島大学	経済経営学類 1 年	伊藤如晏